

# 河童が建造した構造物の研究

## — サーカステントと河童のテントの比較による河童の技術力推定 —

アステルパーム

### 1. 幻想郷における卓越した河童の技術力

幻想郷における科学技術は幻想郷が明治以降に博麗大結界によって外の世界から分離もしくは隔離された後に、外の世界から独立した環境にある [1]。しかし、独立と言っても無縁塚に代表されるように、技術思想が伝わらないまま現実世界の物品が流入していることも多く、幻想郷が科学技術から完全に無縁なものであるとはいえない [2]。このため、幻想郷内部では単純に明治時代の技術水準から分化、進化したものではなく、外の世界と弱い技術交流を行っている状態にあるといえる。このような弱い技術交流の結果として、幻想郷内部にも外の世界の技術を利用している集団が存在する。

その中でも特に注目すべき集団として河童のグループが挙げられる。彼らは神奈子様の後押し、お空の存在など多くの幸運があったものの、外の世界においても高い技術を必要とする核反応の制御を可能としている [3]。また、サーチライトやソナー [4] など、外の世界とよく似た装置を使用するのみならず、クリップボードと白衣 [4] などの、科学技術をベースにした文化を自らの集団内で実現している。アステルパームは河童らの行った常温核融合による発電量の予測 [5] 及び河童が発生させた河道閉塞の研究 [6] などの一連の研究において、河童の技術力の推定を行ってきた。これらの研究は彼らが幻想郷内で最も科学技術に親しんでいるグループであることを示唆しており、彼らの技術水準を推定することは、幻想郷における最も進んだ科学技術を推定することにつながる。

本研究では東方茨歌仙において描写された河童が建造した一時的な構造物の規模の推定を行い、現実世界とよく似た構造物との比較検討を行った。これにより、

使用できる時間と労力が限定される条件下における河童の技術力は、外の世界と分離した後も技術的に特異なリープなしに地道に進展してきたことを明らかにした。

### 2. プラネタリウムのドーム型テント

#### a テントの形状解析

図1に茨歌仙第二十五話 [4] に収録されたプラネタリウム用のドーム型テントを示す。コマ内に描写されている人間たちと比較すると、このテントは人間を数十～数百人収容できる規模の大きさである。その大きさを定量的に推定するため、本項ではコマ内に描写されている人間21人の大きさを実測し、投影法に基づく補正を施したところ、その平均値は4.97cmであった。この平均値は1945年の日本人の平均身長である155cm [7] と同一であると仮定して縮尺を決定した。これにより、今後は縮尺はコマからの実測値4.53cm = 構造物の大きさ1mとしてテントの大きさを推定する。

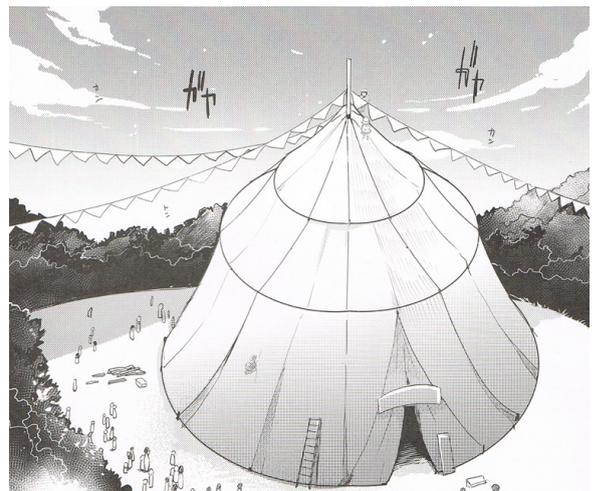


図1 河童のプラネタリウム用テント